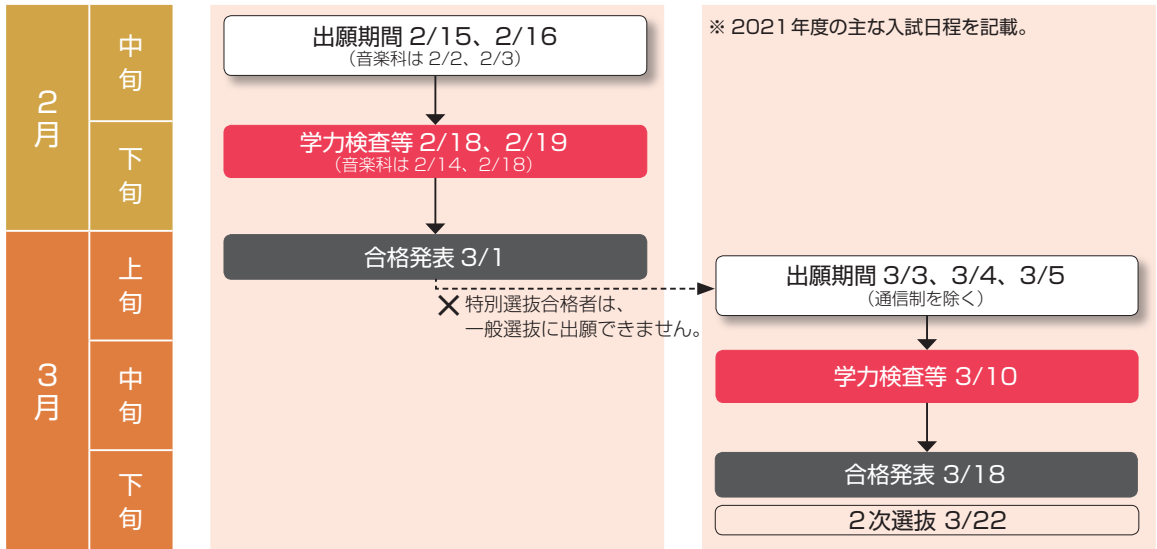


大阪府

通学区域について
府内全域、どの学校・学科・コースでも受験することができます。

選抜名	特別選抜	一般選抜
実施学科	<ul style="list-style-type: none"> ◇工業に関する学科(デザイン系) ◇体育に関する学科 ◇音楽科 ◇芸能文化科 ◇美術科・総合造形科 ◇演劇科 ◇グローバル探究科 ◆エンパワメントスクール ◆クリエイティブスクールⅠ部・Ⅱ部 ◆昼夜間単位制 	<ul style="list-style-type: none"> ◇全日制のすべての学科 (特別選抜を行う学科を除く) ◆定時制 ○通信制 <p>※◇◆○はそれぞれ下記選抜資料に対応。</p>
選抜資料	<ul style="list-style-type: none"> ◇調査書、自己申告書、学力検査(5教科)+実技検査 ◆調査書、自己申告書、学力検査(5教科)+面接 	<ul style="list-style-type: none"> ◇調査書、自己申告書、学力検査(5教科) ◆調査書、自己申告書、学力検査(3教科) ○調査書、自己申告書、面接



入試当日のスケジュール

<特別選抜>

時限	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
教科	国語	数学	英語	理科	社会
問題	A・B	A・B	A・B	リスニング	共通
時間	40分	40分	40分	15分	40分
時刻	9:00~9:40	10:00~10:40	11:00~11:40	11:50~12:05	13:00~13:40
配点	45点	45点	45点	45点	45点

実技検査 (学力検査の後、翌日に実施、音楽科の視唱・専攻実技は学力検査の前に実施)

学科	デザイン美術系	体育	音楽	グローバル探究	芸能文化	演劇
種目	基礎的描写 総合的表現	運動能力 運動技能	聴音 視唱 選考実技	英語の音読 英語の口頭試問	朗読 口頭試問	身体表現 歌唱表現
配点	75点 75点	45点 180点	20点 30点 100点	20点 80点	50点 50点	75点 75点

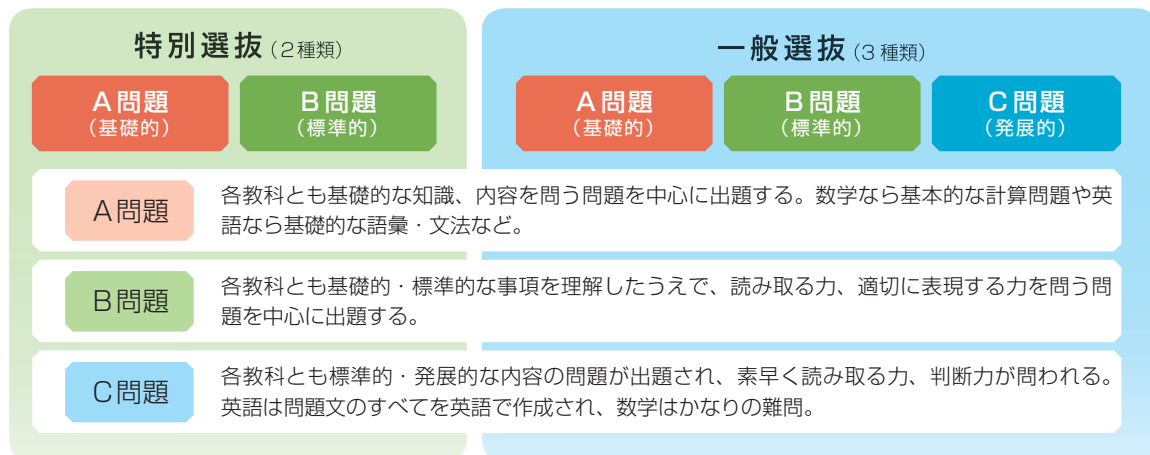
<一般選抜>

時限	第1時	第2時	第3時	第4時	第5時
教科	国語	数学	英語	理科	社会
問題	A・B・C	A・B	A・B	リスニング	共通
時間	50分	50分	40分	15分	40分
時刻	9:10~10:00	10:20~11:10	11:30~12:10	12:20~12:35	13:30~14:10
問題	/	C	C	リスニング	※数学のC問題は60分。対象校では英語以降の開始時刻が10分ずつ遅くなります。
時間		60分	30分	25分	
配点	90点	90点	90点	90点	90点

入学者選抜の概要 (2020年度の場合)

学力検査にはA・B・C問題がある

国語・数学・英語の問題については、2種類(特別選抜)／3種類(一般選抜)が作成され、各高校ではそのいずれかを選択して出題されます。



※英語の学力検査で使用する英単語は、府教委が作成する「大阪版中学校で学ぶ英単語集」の範囲から出題。問題作成にあたっては、学力検査の難易度に応じた単語を使用します。

英語は「外部検定スコア」で点数が保障される

外部検定のスコア等が下記レベル以上の場合、出願時に申請すれば以下の点数を保障。学力検査の点数を上回れば、その点数が採用となります。

外部検定のスコア等			点数	保障点数	
TOEFL iBT	IELTS	英検		特別選抜	一般選抜
60～120点	6.0～9.0	準1級	100%	45点	90点
50～59点	5.5	対応なし	90%	41点	81点
40～49点	5.0	2級	80%	36点	72点

全員、出願時に「自己申告書」の提出が必須！

あらかじめ教育委員会が提示するテーマについて記述し、出願時に提出します。「あなたは、中学校等の生活でどんな経験をし、何を学びましたか。また、それを高等学校でどのように生かしたいと思いますか」といったテーマに対し、できるだけ具体的に記述することがポイント。点数化はされず、また字数の制限もないが1,200字～1,400字程度が想定されています。

複数学科設置校について ～例：箕面・和泉(グローバル科/普通科設置)など

出願は1校1学科等に限りませんが、複数の学科を設置している学校では他の1学科等を第2志望することができます。第2志望の扱いは以下のとおり。

- ①志望学科に関係なく、すべての受験生を総合点順に並べ、上位者からそれぞれの第1志望の学科の合格候補者とする。
- ②1つの学科のボーダーゾーンを含んだ人数が合格候補者で満たされた時点で、その学科の合格者を先に決定する(ボーダーゾーンの扱いについては次ページ参照)。
- ③その時点での合格決定者を除いた者の中から、志望順位に関わらず総合点の上位者から順に、他方の学科の合格者を決定(ただしその学科を志望しない者を除く)。
- ④3つ以上の学科を併置している場合は、同じ手順をくり返す。

各高校では、あらかじめ下記の5タイプからいずれかを選択。高校ごとに決められた比率（学力検査：調査書評定）によって、合否判定のための総合点が算出されます。

特別選抜 総合点
450点満点

学力検査の成績 **225点満点** + 調査書の評定 **225点満点**

5教科(国社数理英)各45点
※実技検査を行う学科では、上記の得点に実技の得点を加えて総合点とする。

9教科×5段階×各学年倍率

1年	2年	3年
1倍	1倍	3倍

タイプ	①と②の比率	①学力検査の成績にかける倍率	②調査書の評定にかける倍率
I	7:3	1.4倍(315)	0.6倍(135)
II	6:4	1.2倍(270)	0.8倍(180)
III	5:5	1.0倍(225)	1.0倍(225)
IV	4:6	0.8倍(180)	1.2倍(270)
V	3:7	0.6倍(135)	1.4倍(315)

※（ ）内の数値は、倍率をかけた点数。

一般選抜 総合点
900点満点

学力検査の成績 **450点満点** + 調査書の評定 **450点満点**

5教科(国社数理英)各90点

9教科×5段階×各学年倍率

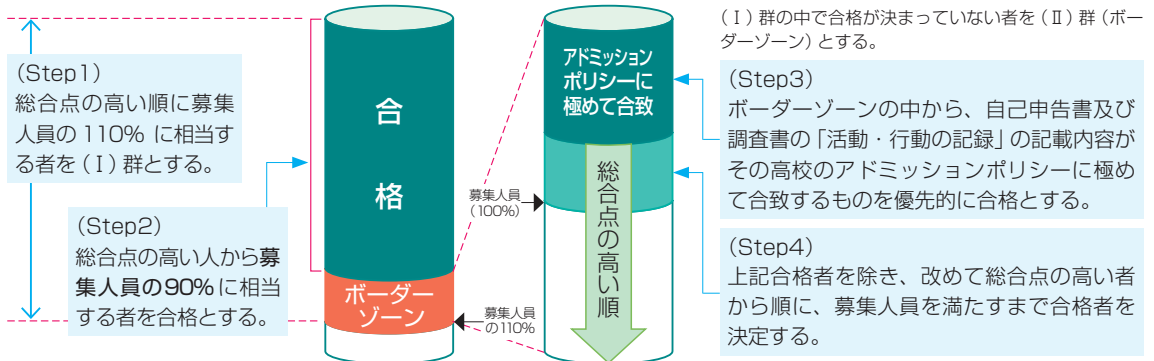
1年	2年	3年
2倍	2倍	6倍

タイプ	①と②の比率	①学力検査の成績にかける倍率	②調査書の評定にかける倍率
I	7:3	1.4倍(630)	0.6倍(270)
II	6:4	1.2倍(540)	0.8倍(360)
III	5:5	1.0倍(450)	1.0倍(450)
IV	4:6	0.8倍(360)	1.2倍(540)
V	3:7	0.6倍(270)	1.4倍(630)

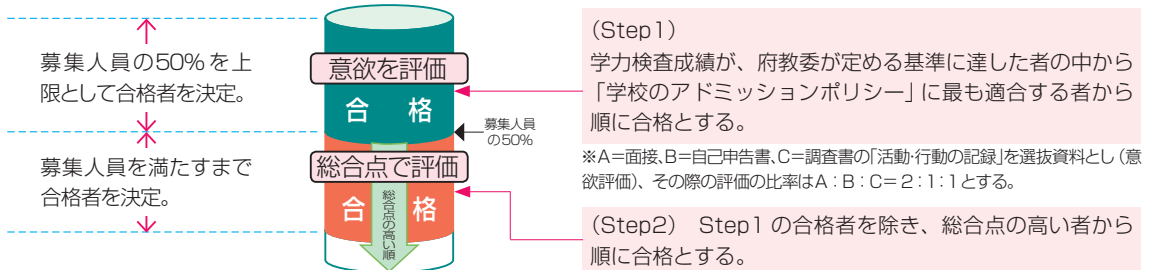
※（ ）内の数値は、倍率をかけた点数。

合否判定の方法

1. 一般選抜（通信制除く）・特別選抜（実技検査実施）



2. 特別選抜（面接実施）



3. 一般選抜（通信制課程）・二次選抜

面接（自己申告書等を参考資料とする）および調査書を総合的に判断し、合格者を決定します。

調査書の取り扱い（2021 年度入試）

今年度は新型コロナウイルスの影響により、中学3年生を対象としたチャレンジテストの実施が中止になったため、2021年度入試は以下のように調査書の評定を取り扱います。

府内統一ルール（中3生）

①学力5教科について、中学2年生2学期末までの評定状況と中学2年生の1月に実施したチャレンジテストの結果を使って、府全体の「評定平均」を定める。

府全体評定平均 $3.49=5(\text{評定})\times 19\%+4\times 28\%+3\times 38\%+2\times 13\%+1\times 2\%$

②各中学校は、チャレンジテストの自校の結果と府全体の平均とを比べて、自校の「評定平均の範囲」を算出する。今年度は評定平均のめやす ± 0.5 を「評定平均の範囲」とする（※図Ⅰ）。

③各中学校は自校の3年生全体の5教科の評定平均と②で求めた「評定平均の範囲」とを比べ、適切な評価が行われているか検証し、範囲に収まらない場合、評価方法を見直して評価を決定する。

④実技4教科について、中学2年生の学年末の評定状況により、「府全体の4教科評定平均」を定める。

府全体評定平均 $3.46=5(\text{評定})\times 16\%+4\times 31\%+3\times 40\%+2\times 9\%+1\times 4\%$

⑤各中学校は自校の3年生全体の4教科の評定平均を算出し、「府全体の4教科の評定平均」の ± 0.3 の範囲と②で求めた「評定平均の範囲」とを組み合わせ設定した「自校の4教科の評定の範囲」と自校の3年生全体の4教科の評定平均とを比べ適切な評価が行われているか検証し、範囲に収まらない場合、評価方法を見直して評価を決定する（※図Ⅱ）。

図Ⅰ：平均評定の範囲（評定平均のめやす ± 0.5 とした場合）

	A中学校	府全体	B中学校
平均正答率	57.0%	60.0%	63.0%
対府比	0.95	1とする	1.05
評定平均のめやす	3.32	3.49	3.66
評定平均の範囲 ± 0.5			

※平均正答率は仮定した場合

図Ⅱ：4教科の検証範囲について（例：評定平均の範囲が2.45～3.45の場合2.45～3.76の範囲に収める）

